

モーニングスター・アワード “Fund of the Year”

2018年2月2日

2年連続受賞



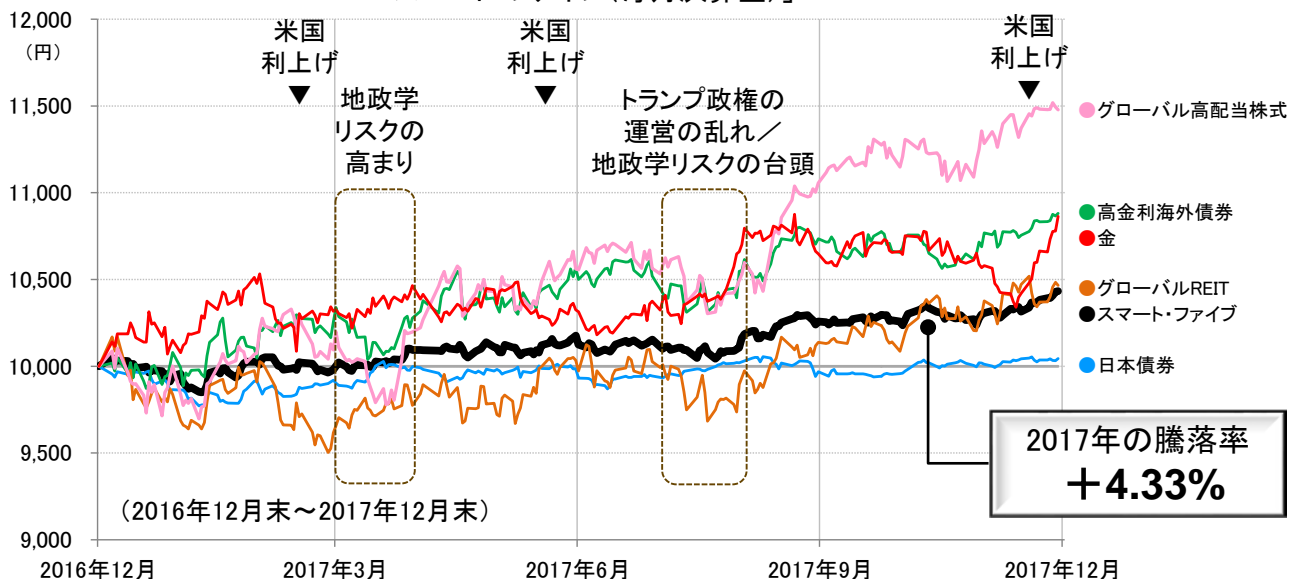
「スマート・ファイブ（毎月決算型）」は、バランス（安定）型 部門において
2016年の最優秀ファンド賞に続き、2017年も優秀ファンド賞を受賞しました。

2017年も安定感を見せた「スマート・ファイブ」

本資料では、2017年の「スマート・ファイブ」のパフォーマンスを振り返りながら、
「スマート・ファイブ戦略」のポイントを改めてご紹介いたします。

【基準価額と各資産の推移、資産配分の推移】

「スマート・ファイブ（毎月決算型）」



※各資産で使用したインデックスについては、後述をご参照ください。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の税引前分配金再投資ベースの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※資産構成比率は純資産総額比です。資金動向などによりその他がマイナスとなる場合があります。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

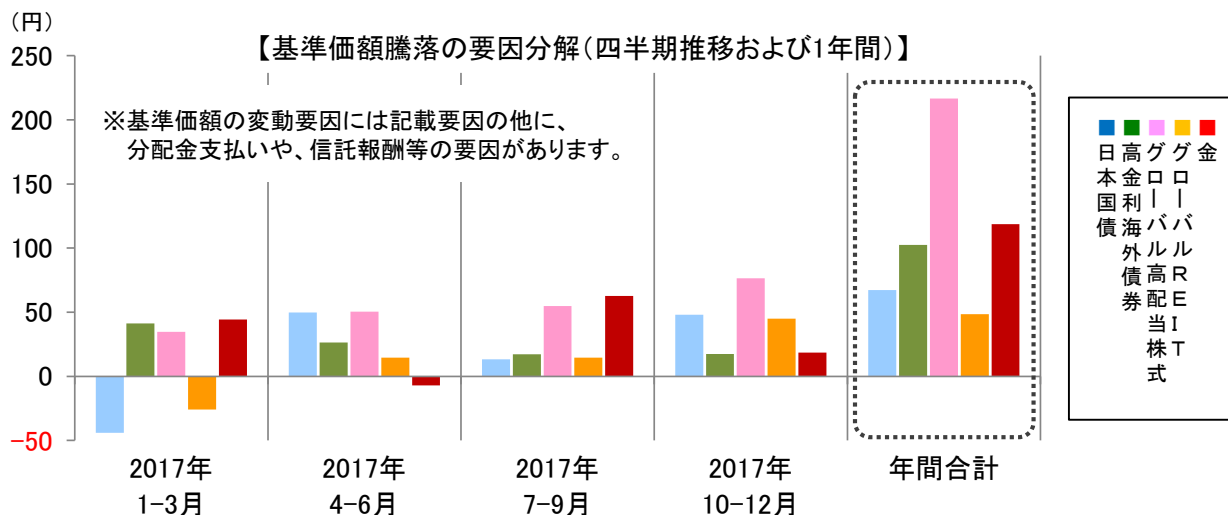
■当資料は、投資者の皆様へ「スマート・ファイブ（毎月決算型）/（1年決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額騰落の要因分解

5資産が基準価額に与えた影響

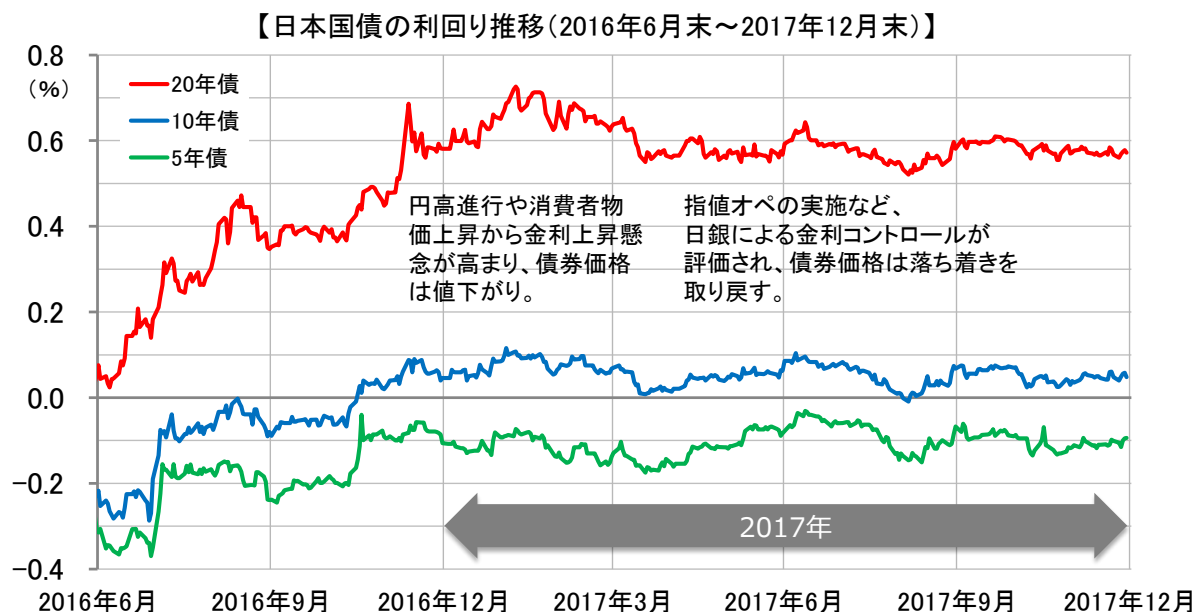
- 米国の経済成長や欧州経済の底堅さなどを背景に、世界経済が成長軌道となったことから、グローバル高配当株式が値上がりしました。また、地政学リスクの高まりや資源価格上昇などを受け、金も値上がりしました。
- 一方、米国の追加利上げが嫌気され、REIT市場は年前半は軟調な推移となりました。



※要因分解は、当ファンド(毎月決算型)の基準価額騰落の要因分解です。また、要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

日本国債は年央から落ち着きを取り戻しました

- 日本国債は、海外金利の上昇などにより一時的に値下がりする局面がありましたが、日銀による金融緩和策により概ね安定して推移しました。



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

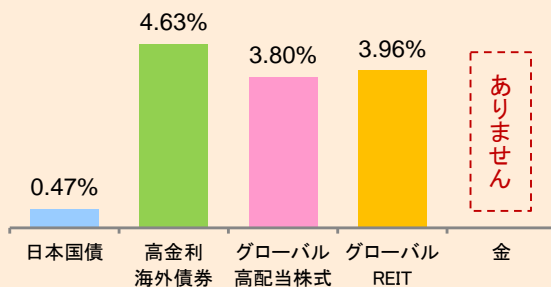


インカム収入は確保できたか？

各資産の値上がり益は抑制されたもののインカムは確保

- 当ファンドは、「スマート・ファイブ戦略」を用いて、ファンド全体の価格変動リスクの抑制をめざして運用しています。そのため、各資産の価格上昇による投資成果は幾分低くなりますが、相対的に高い収益が期待できる資産へ投資しており、インカム収入を含むリターンを獲得が期待されます。
- なお、日本国債や高金利海外債券からの利子収入や、高配当株式からの配当金、REITからの分配金などのインカム収入は、合算され積み上がりますので、中長期的な視点で見た場合、インカム収入の貢献度が高まると考えています。

【各資産の利回り水準】(2017年12月末現在)

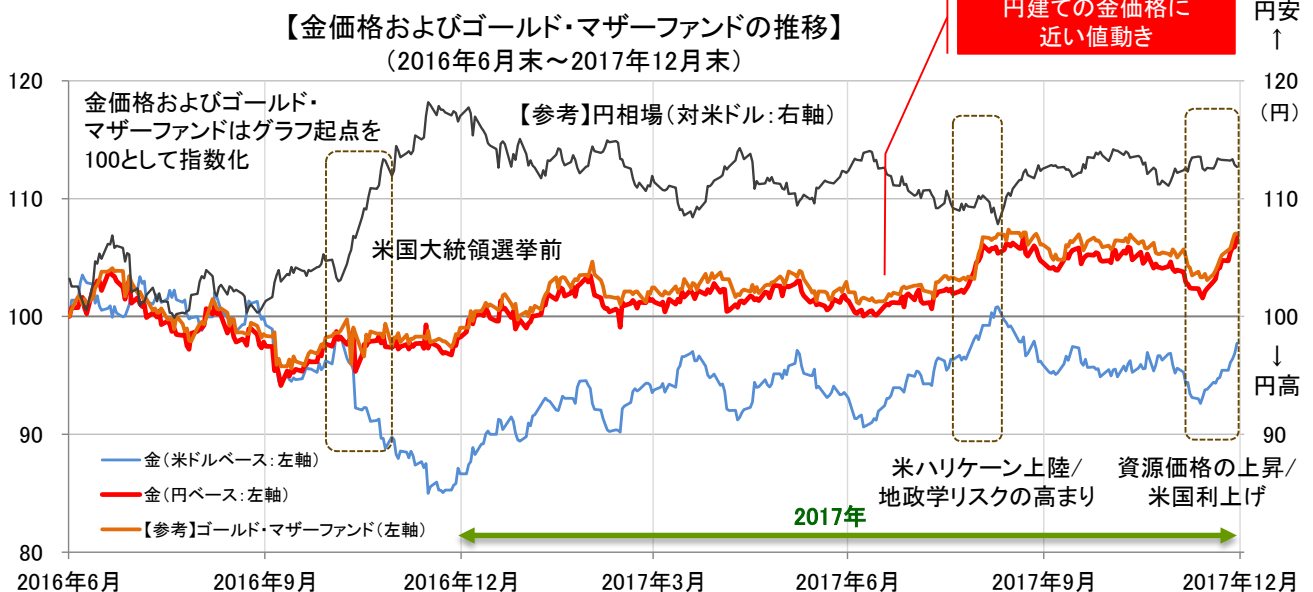


- ※ 左記は、高金利海外債券を除き、当ファンドの実質的な投資対象である外国投資信託ならびにマザーファンドにおける利回りを使用しています。
- 日本国債：組入銘柄の平均最終利回り
- 高金利海外債券：ブルームバーグ・バークレイズ・インターナショナル・ハイインカム・ソブリン・インデックス（ヘッジなし・円ベース）の平均最終利回り
- グローバル高配当株式：組入銘柄の株式配当利回り
- グローバルREIT：組入銘柄の予想分配金利回り
- ※ 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

「金」はどうなっていたのか？

市場急変時に金が基準価額の下支えに貢献しました

- 地政学リスクの高まりに加え、米国景気や政策金利引き上げなどに伴う米ドル上昇(米ドル高)の影響を受け、堅調に推移しました。



※グラフは、ブルームバーグ金サブ・トータル・リターン指数(米ドルベース)と日興アセットマネジメントが円換算したものを掲載。
 ※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「スマート・ファイブ(毎月決算型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
 ■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後のリスク要因

金利上昇がファンドに与える影響はどの程度か？



- 日本経済の回復が進み、金利上昇局面となった場合、債券価格は軟調な推移となることが考えられますが、その影響は緩やかに現れると想定されます。
- 一方、中長期では、金利上昇によりインカム収入の増加が期待されます。
- また、その様な局面では、株式やREITなどの値上がりも期待され、当ファンドのパフォーマンス向上が期待されます。



(将来期待される) 景気回復の加速局面

景気過熱によるインフレの抑制のために金利引き上げ



企業業績の拡大
所得増加、消費拡大



不動産市況の上昇

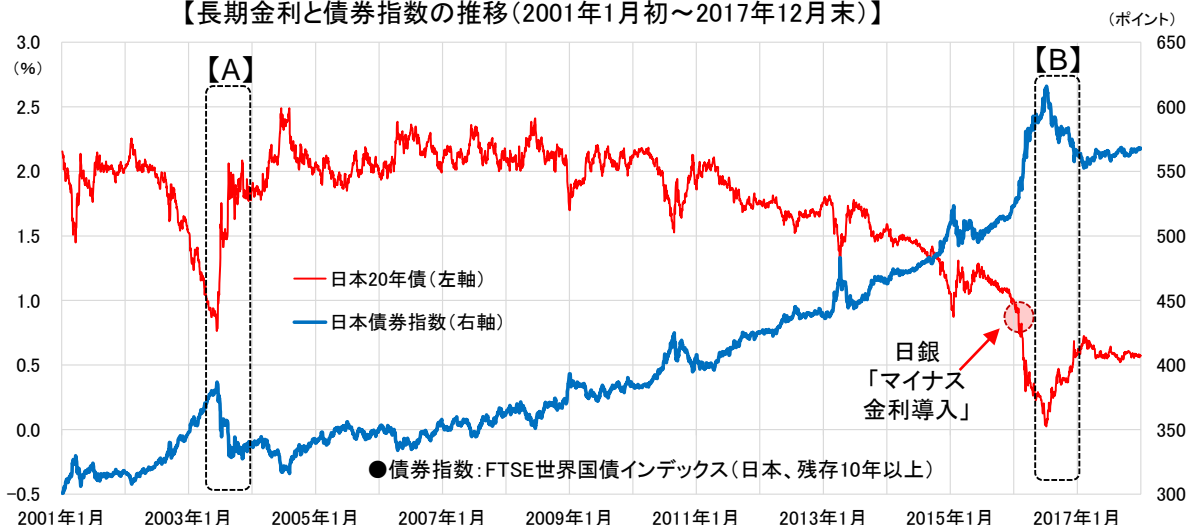


※価格変動などに関する説明は一般論であり、実際はこれと異なる値動きをする場合があります。

これまでの債券投資のパフォーマンスには、インカム収入の貢献がありました

- 2000年以降の日本の金利の推移を見ると、2003年夏に急激に金利(国債利回り)が上昇した時期があり、この時、債券指数も大きく値下がりしました。(グラフ【A】)
- 足元を見ると、日銀の金利コントロールの効果もあり、2016年夏から金利は緩やかに上昇しており、この先、上昇することがあっても、穏やかな上昇となると予想されます。(グラフ【B】)
- また、債券指数の推移からは、金利収入によりパフォーマンスが下支えされる傾向が見られます。

【長期金利と債券指数の推移(2001年1月初～2017年12月末)】



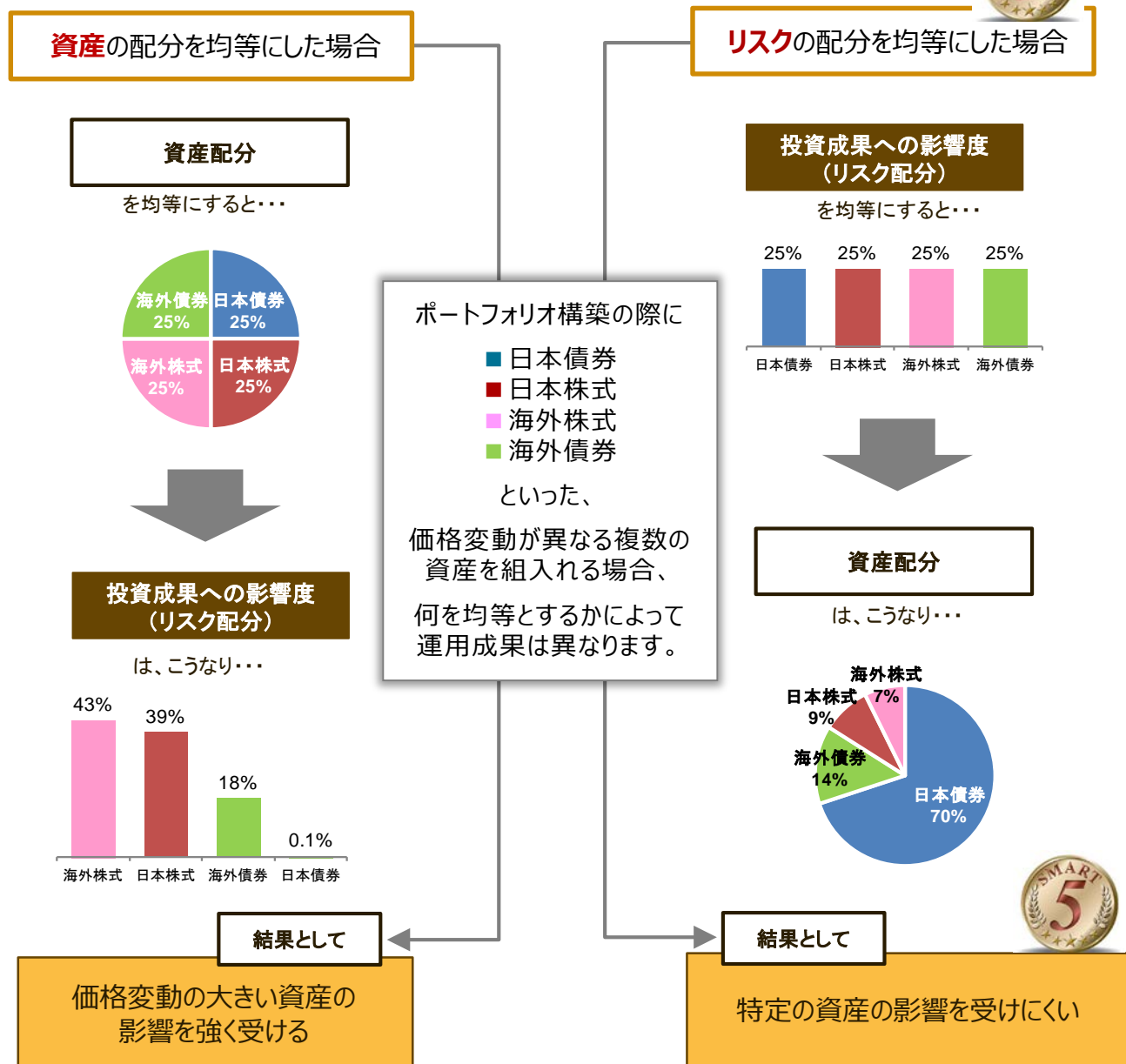
※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

いま一度のおさらい

「スマート・ファイブ戦略」とはどのような戦略なのか？

- 複数の資産に投資を行なうファンドの投資配分の手法には、「投資（投資額）を均等」にするものがあり、この場合はリスク（価格変動の大きさ）の大きい資産の値動きの影響を受けやすい傾向があります。一方、各資産がファンドに与える「リスクが均等」となるよう配分する手法では、ファンドの値動きは小さくなる傾向にあり、リスクの抑制が期待されます。

リスク配分の手法と結果



●上記の配分は、1988年12月末～2016年12月末における各資産の月次データを基に日興グローバルラップが算出しています。

●日本株式：日興株式パフォーマンスインデックス（総合）、日本債券：日興債券パフォーマンスインデックス（総合）、海外株式：MSCI KOKUSAI（円ベース）、海外債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

※上記は、「リスク配分の手法」の一般的な考え方を紹介するためのものであり、当ファンドの投資対象資産や投資成果等を示すものではありません。

「スマート・ファイブ戦略」に期待されること

中長期投資に適した穏やかなパフォーマンスの獲得



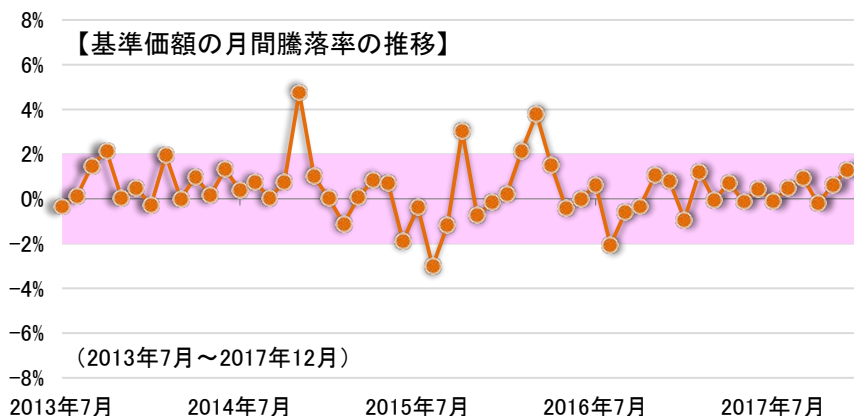
『将来を予想しない運用』

将来の各資産の値動きを予想して資産配分を考えるのではなく、「スマート・ファイブ戦略」により、結果としての穏やかなパフォーマンスをめざします。



『値下がり小さくすることで、早期の回復をめざす』

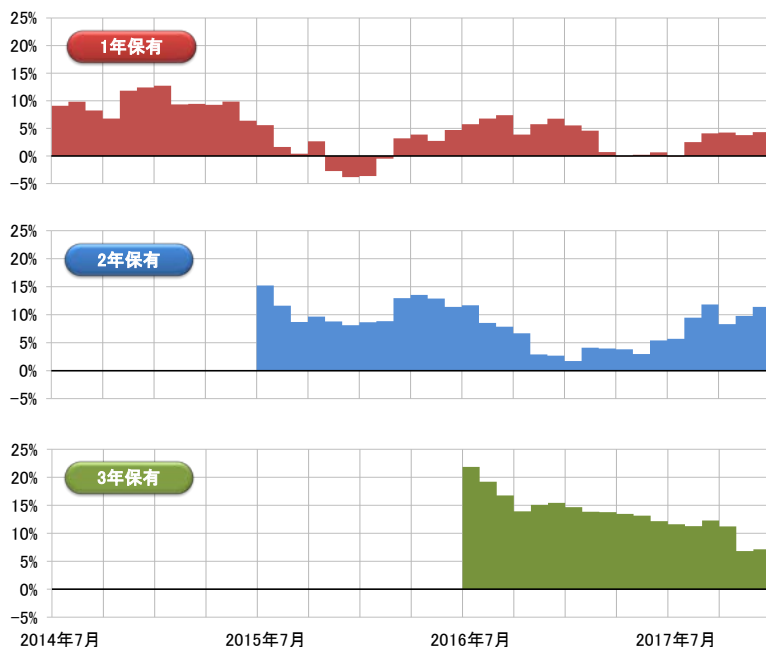
投資先資産が押しなべて下落する局面は避けられませんが、そうした局面でのファンドの値下がり小さく留めることで、その後の回復に必要な期間を短くすることをめざします。



実際に、「スマート・ファイブ」の月間騰落率は、**概ねプラスマイナス2%の範囲**に留まってきました。



長期投資の効果はどれくらいあったのか？



【「スマート・ファイブ」投資期間ごとの収益率】
(2017年12月末時点)

	最小値	平均値
1年保有	▲3.8%	4.7%
2年保有	1.7%	8.3%
3年保有	6.8%	13.5%

「スマート・ファイブ」は
**長く保有するほど「投資成果」が
積み上がり収益率がより安定する
傾向にあります。**

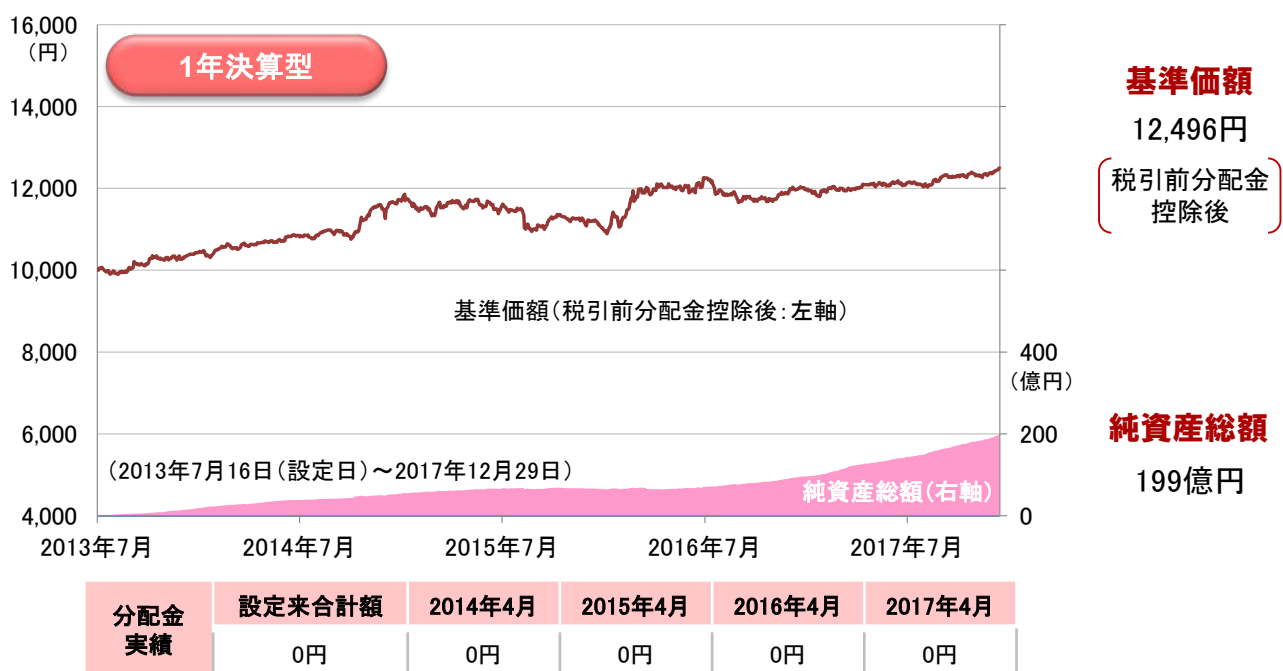
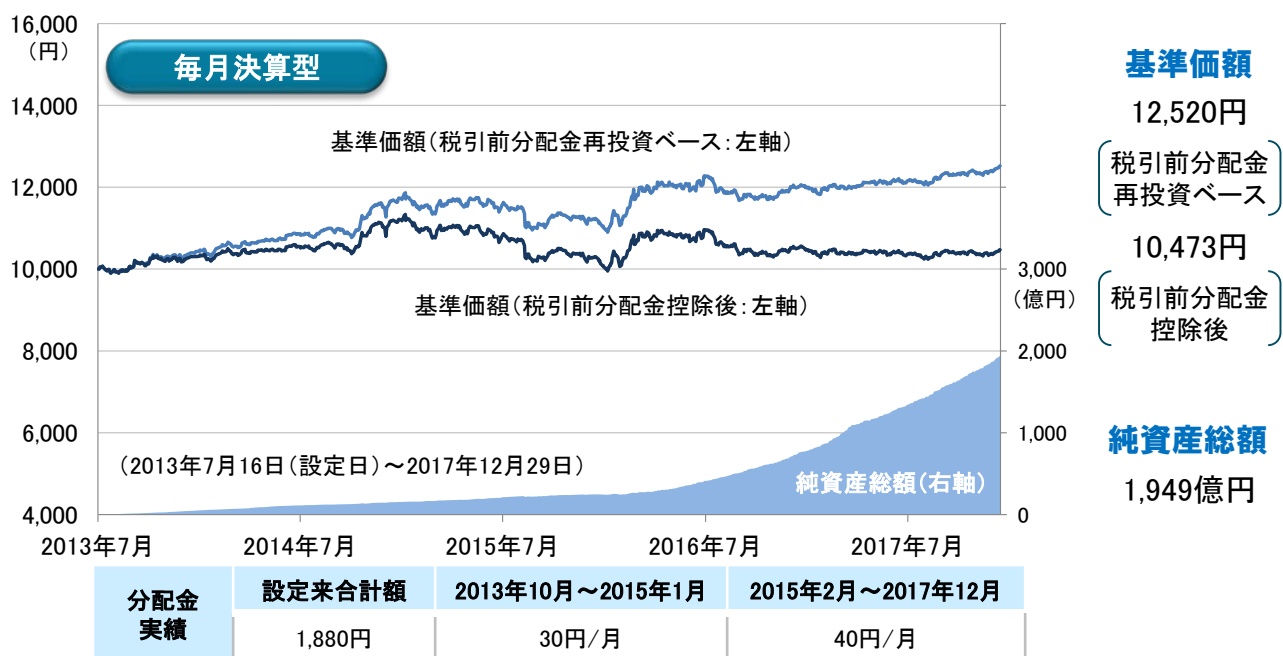
- 当グラフは、上記時点(2014年7月末以降)における保有期間毎に実現した収益率を掲載しています。
- ※ 収益率には、手数料や税金などの費用を加味していません。

※「スマート・ファイブ」の収益率は、「毎月決算型」の基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出しています。
※税引前分配金再投資ベースは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

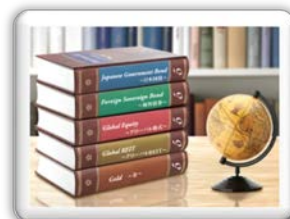
当ファンドのパフォーマンス①

(2017年12月29日現在)

基準価額および純資産総額の推移



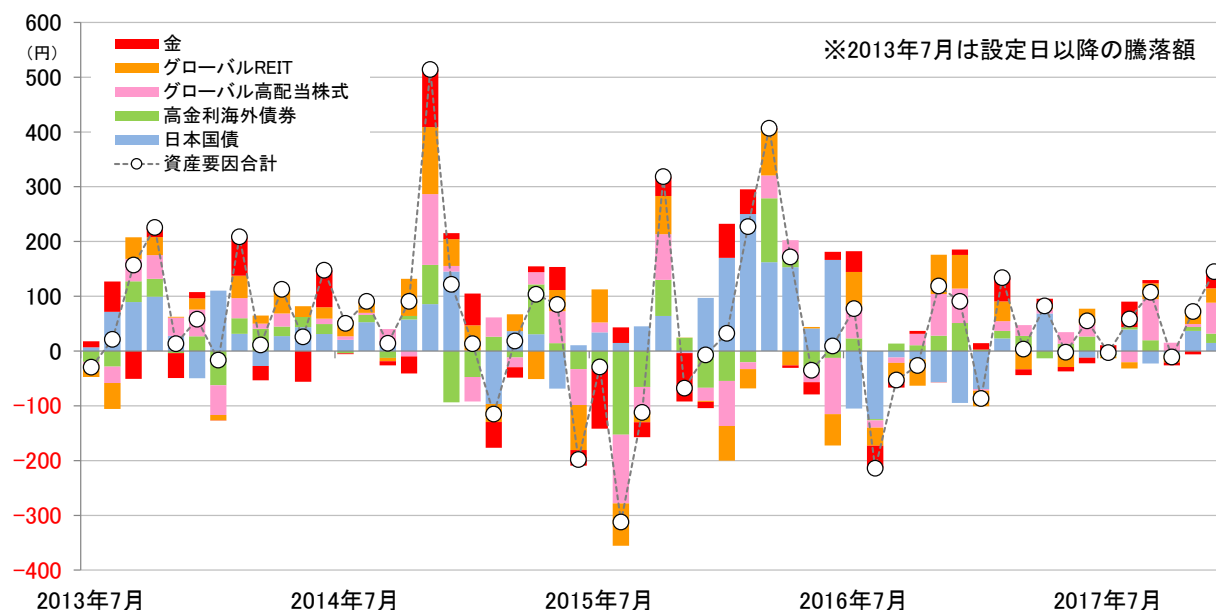
- 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- 税引前分配金再投資ベースとは、分配金(税引前)を再投資したもとして算出した理論上のものである点にご留意ください。
- 分配金は税引前の1万口当たりの値です。
- ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。
- ※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



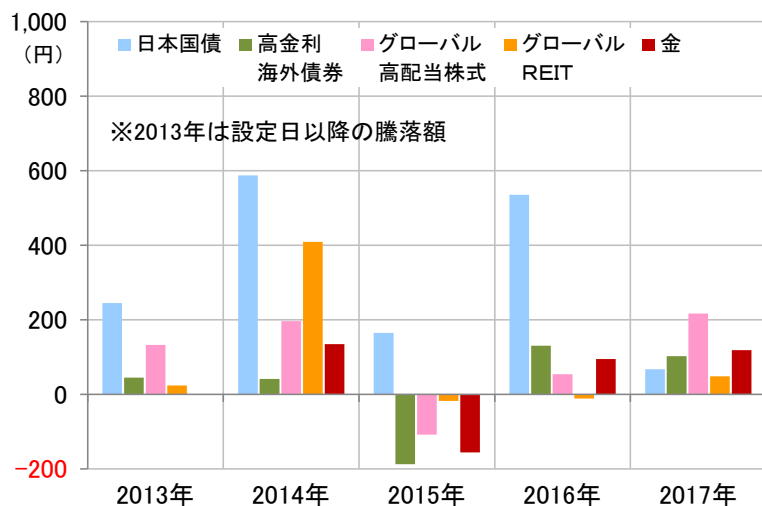
当ファンドのパフォーマンス②

基準価額騰落の資産別要因分解の推移

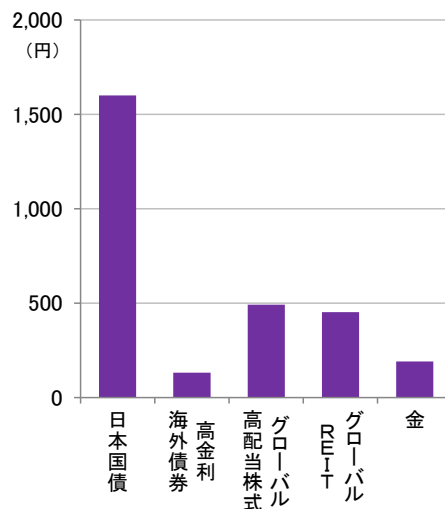
月次推移(2013年7月※～2017年12月)



年次推移(2013年※～2017年)



設定来合計額

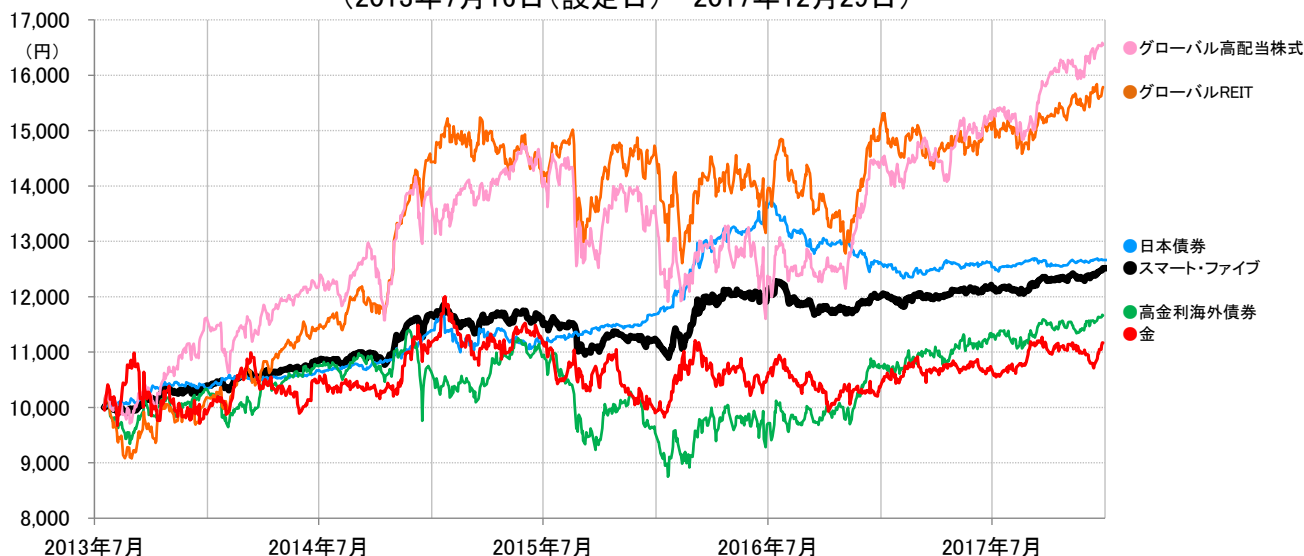


- 上記は、当ファンド(毎月決算型)の基準価額騰落の要因分解です。
 - 要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
 - 基準価額の変動要因には記載要因の他に、分配金の支払いや、信託報酬等の要因があります。
- ※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当ファンドのパフォーマンス③

スマート・ファイブと各資産の推移

(2013年7月16日(設定日)～2017年12月29日)



※ スマート・ファイブのパフォーマンスは、「スマート・ファイブ(毎月決算型)」の基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出しています。

※ 税引前分配金再投資ベースは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 各資産で使用したインデックスについては、後述をご参照ください。

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
	世界REIT 41.7%		世界債券 12.5%	世界株式 14.8%
世界株式 16.2%	世界株式 18.2%		日本国債 8.1%	世界債券 8.8%
スマート5 4.0%	金 13.0%		スマート5 6.8%	金 8.6%
世界債券 3.4%	スマート5 12.4%		世界株式 6.1%	世界REIT 4.7%
日本国債 3.4%	日本国債 10.2%	日本国債 2.5%	金 4.6%	スマート5 4.3%
世界REIT 1.8%	世界債券 3.1%	世界REIT 1.8%	世界REIT 2.5%	日本国債 0.4%
金 -1.2%		世界株式 -1.1%		
		スマート5 -3.8%		
		世界債券 -10.5%		
		金 -11.3%		

スマート・ファイブと各資産の年間リターン

※ 世界株式: グローバル高配当株式
スマート5: スマート・ファイブ
世界債券: 高金利海外債券
世界REIT: グローバルREIT

※ 各資産で使用したインデックスについては、後述をご参照ください。

※ スマート・ファイブのパフォーマンスは、「スマート・ファイブ(毎月決算型)」の基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出しています。

※ 税引前分配金再投資ベースは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

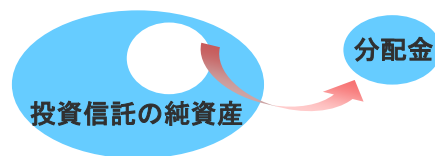
※ 2013年は、当ファンドの設定日(7月16日)から年末までの騰落率です。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

投資信託で分配金が支払われるイメージ

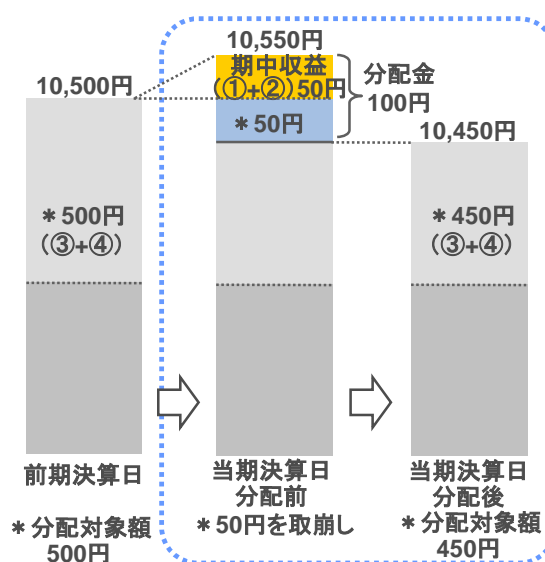
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



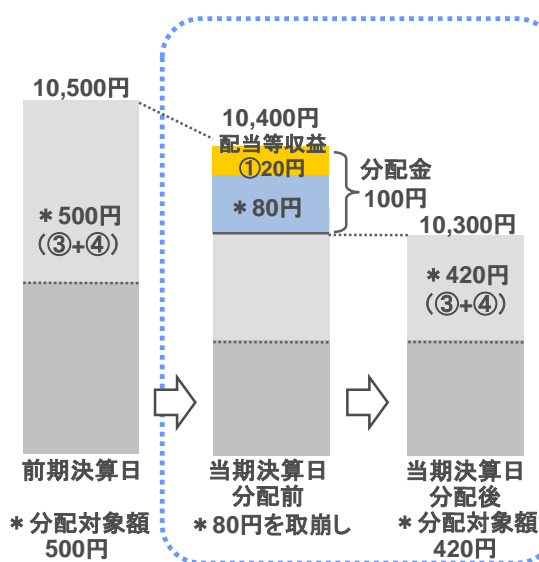
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



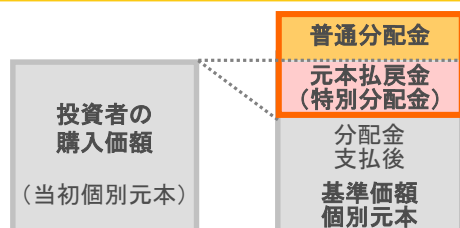
前期決算から基準価額が下落した場合



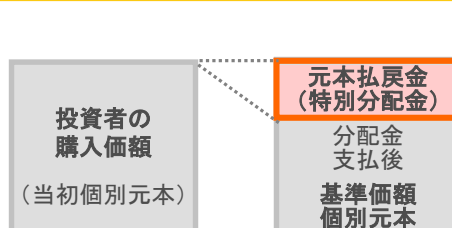
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金 : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、(特別分配金) 元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

お申込みに際しての留意事項

■投資信託に関する留意事項

- 投資信託は預金・貯金ではありません。
- 日本郵便株式会社は、株式会社ゆうちょ銀行から委託を受けて、投資信託の申し込みの媒介（金融商品仲介行為）を行います。日本郵便株式会社は金融商品仲介行為に関して、株式会社ゆうちょ銀行の代理権を有していないとともに、お客さまから金銭もしくは有価証券をお預かりしません。
- 当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託取得の申し込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。
- 投資信託説明書（交付目論見書）はゆうちょ銀行各店または投資信託取扱郵便局の投資信託窓口にて用意しております。ただし、インターネット専用ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）はインターネットによる電子交付となります。

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券、株式、不動産投信および金上場投信を実質的な投資対象としますので、債券、株式、不動産投信および金上場投信の価格の下落や、債券、株式、不動産投信および金上場投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産および金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

【その他の留意事項】

- 当資料は、投資者の皆様へ「スマート・ファイブ（毎月決算型）／（1年決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込メモ

- 商品分類: 追加型投信／内外／資産複合
- ご購入単位: 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額: 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日: 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間: 2028年4月10日まで(2013年7月16日設定)
- 決算日: 【毎月決算型】毎月8日(休業日の場合は翌営業日)
【1年決算型】毎年4月8日(休業日の場合は翌営業日)
- ご換金不可日: 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、換金請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い: 原則として、換金請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料: 購入時手数料率は、2.16%(税抜2%)を上限として販売会社が定める率とします。
※ 分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
- 換金手数料: ありません。
- 信託財産留保額: ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬: 純資産総額に対して年率1.4479%(税抜1.3525%)以内を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.08%(税抜1.0%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.3679%(税抜0.3525%)以内となります。

受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他費用: 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。

※ 組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社:	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 日本証券業協会
投資顧問会社:	日興グローバルラップ株式会社
受託会社:	三井住友信託銀行株式会社
販売会社:	株式会社ゆうちょ銀行 登録金融機関 関東財務局長(登金)第611号 加入協会: 日本証券業協会 【金融商品仲介業者】 日本郵便株式会社 関東財務局長(金仲)第325号



Morningstar Award
“Fund of the Year 2016”
について

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として、モーニングスター独自の定量分析、定性分析に基づき、2016年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(安定)型 部門は、2016年12月末において当該部門に属するファンド109本の中から選考されました。

Morningstar Award
“Fund of the Year 2017”
について

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2017年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(安定)型 部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド142本の中から選考されました。

スマート・ファイブ(毎月決算型)
バランス(安定)型 部門



最優秀ファンド賞

スマート・ファイブ(毎月決算型)
バランス(安定)型 部門



優秀ファンド賞

Morningstar Award “Fund of the Year 2016” および、Morningstar Award “Fund of the Year 2017”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当資料で用いた各指数について

- 本資料で使用したインデックスは、下記の通りです。
なお、いずれも当ファンドのベンチマークではありません。

- 日本国債・・・FTSE世界国債インデックス(日本、残存10年以上)
- 高金利海外債券・・・ブルームバーグ・バークレイズ・インターナショナル・ハイインカム・ソブリン・インデックス(ヘッジなし・円ベース)
- グローバル高配当株式・・・MSCIワールド高配当株式インデックス*
- グローバルREIT・・・S&P先進国REITインデックス(円ベース)
- 金・・・ブルームバーグ金サブ指数トータルリターン*

*公表されている原指数を円換算して使用。

上記指数に関する知的財産権その他一切の権利は各指数の公表企業などに帰属します。
また、指数公表企業などは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。





nikko am
Nikko Asset Management